



Nihon Clinic
日本クリニック



February, 2015



米国内の日本クリニック

CHICAGO

(847) 952-8910

SAN DIEGO

(858) 560-8910

Nihon Clinic

2010 S. Arlington Heights Rd.
Suite 101
Arlington Heights, IL 60005

予約:(847) 952-8910

内科:(847) 758-8080

小児科:(847) 640-5437

カイロ科:(847) 956-3250

ウェブサイトもご利用下さい。

Website: www.nihonclinic.com

E-mail: chicago@nihonclinic.com



今月の健康ニュースレター (Monthly)



◆◆◆ イリノイ州定期予防接種追加のお知らせ ◆◆◆

髄膜炎菌ワクチン



イリノイ州の定期予防接種に本年2015年度より髄膜炎菌ワクチンが追加されたので、お知らせ致します。 今後は、6年生、12年生入学時に、接種の有無の確認が学校側で行われると思われます。

● 髄膜炎菌とは？ ●

髄膜炎菌は、文字通り髄膜炎や敗血症といった重篤な疾患の原因となる細菌です。米国における髄膜炎菌性髄膜炎や敗血症の発生率は、毎年1000-1200人程度と、それほど多くありません。しかしその症例は小児に多く（特に16-21才）、発症すると10-15%の非常に高い確率で死に至るとされています。また、致死に至らないケースでも、11-19%は神経系の異常や、四肢を失うなどの重篤な後遺症を残すと報告されています。

● 髄膜炎の症状 ●

鼻水やセキによる飛沫感染で、初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など、風邪の症状に似ているため、早期診断がとても難しい病気です。しかし、発症後2日以内に5~10%が死亡すると言われています。



そのため、他州では髄膜炎菌ワクチンはすでに定期接種となっていました。イリノイ州も本年より定期接種となり、全米で定期接種となった最後の州の1つとなります。

● 接種のスケジュール ●

米国では11歳から18歳までのすべての子どもに対して髄膜炎菌ワクチンの接種が推奨されています。一般的な接種スケジュールとしては、11歳から12歳の間に一回接種し（6年生）、16歳になったら（12年生）、ブースターといって、免疫を強化する目的でもう一回接種します。



● 副反応 ●

副反応は、他の予防接種と同様に、微熱、注射部位の腫れ、発赤、熱感。ごくまれに重篤なアレルギー反応を認めます。

● ワクチン接種の推奨 ●

2歳から10歳までの子ども、および19歳から55歳の方に対しても、髄膜炎菌感染のリスクが高い方に対してはワクチン接種が推奨されています。例として、先天的に免疫機能が低下している方、過去に脾臓の摘出を受けた方、また上に述べた髄膜炎の流行地域に旅行する予定がある場合などです。また米国では大学の学生寮に入居する際に、髄膜炎ワクチン接種の証明を求められることがあります。

